

---

# 地球防衛軍～学徒兵達の記録～

大根

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

地球防衛軍〜学徒兵達の記録〜

### 【Nコード】

N4759Z

### 【作者名】

大根

### 【あらすじ】

〜西暦2019年〜

中東で起きた戦争により、世界は臨戦態勢を取り、日本も軍隊を再建。

学校教育における軍事訓練の実施が行われた・・・

それから3年。

戦争は終わったが、その制度は残っていた。

世界は一旦の平和を取り戻したに思えた。

しかし、未知なる存在が着々と地球を狙い、侵略しようとしていた・

修明高校に通う学生、『須藤直人』は、大切な者を守るため、その手に『銃』を取る・・・

とまあ、偉そうに書いてますが、作者がキルゾーンと地球防衛軍をやって、何となくに書きかけてたのに続きをつけたただけです。適当くをお願いします。

ガンダムの方もあるので、更新頻度は多分遅れます？

どちらをメインにするかは、人気で決めます（＾|＾；）元から人気なんかありませんがね。

## 主人公と周りの状況の説明（前書き）

さて、適当に書いたやつなんで、期待はしないでくださいよね？

展開と設定は、いろんな所から無茶苦茶に引つ張ってきます。

生暖かい目をお願いします（ ; ）

武器なども、キルゾーンのを使います（数少なくて楽なんですよ？  
名前はしりませんが・・・）

## 主人公と周りの状況の説明

〔西暦2019年〕

中東でどっかの国が引き起こした戦争で、世界の均衡は破られた。

アメリカも臨戦体制をとり、同盟であった日本にもとばっちりが来た。

自衛隊の廃止、軍隊の再建。

一部の学校教育に置ける、基礎的な軍事訓練の実施

結局半年足らずで戦争は終わりを迎えたが、この制度は実施されたままだった。

大方、国のお偉いさんがめんどくさくでもなったじゃないのか？

けれど、国が軍事訓練を実施している学校には、金がかからない。

4

何て素晴らしいんだ。

俺は頭がめちゃくちや悪い。私立に行くのは家計が厳しい。

俺はこの話に、勢いよく飛び付いた。

後にこの安易な決断に、感謝も後悔もすることも、全くわかって無かった・・・

〔西暦2022年〕

11月7日(月)

重たい目をこすりながら、寒い中、愛用の自転車で学校へと向かう。しだいに『俺』『須藤直人』が、通う修明高校が見えてくる。眼鏡が曇ってきたが、学校を目の前にしてるんだ。ついてから拭けばいい。

何時ものように特徴のない校門を通る。

そのまま自転車を置き、クラスへと向かう。  
クラス？1-Gだ。

木川「お、直人。おはよっ！」

クラスに入ると、1人の男子が声を掛けてきた。

こいつは、木川武文きかわたけふみ身長は180越え、髪はさっぱりとしたスポーツカット、白い歯が眩しい、『残念』なイケメンが声を掛けてきた。実はこの木川、かなりの二次元オタクなのだ。

木川「お前なんか失礼な事考えたろ！？・・・否定はしないがな！」

須藤「肯定かよ！？」

木川がボケ、俺がが突っ込む。何時もの朝だ。

朝野「全く、君たちは朝から騒がしいね。」

くいつと眼鏡を持ち上げながら、俺とは違う。

如何にもインテリと言わんばかりの眼鏡がよってきた。

身長は大体160ないかってあたりだな。

こいつは、朝野公宏あさのきみひろ

次席で入学したも、何故かSクラスを蹴ってGクラスに来た変わり者だ。

この学校は、成績順にクラスが別れている。1〜40までがSクラス、以降はAからGまで40人ごとにわかれていて、計320人の『一年生』がいる・・・らしい。

金が掛からないってすごいね。

朝野「確かにね。」

俺のモノローグに割り込むなよ。

須藤「まあ・・・とりあえずおはよ。」

『とりあえず』挨拶を返しておく。

ん？軍事訓練はないのだった？

一年生は、今週から模擬戦とかに入る。今までは座学ばかりだったしな。

「キーンコーンカーンコーン」

木川「お。ホームルーム始まるぜ。」

木川の一言で解散し、席に付く。

俺の席は一番前、教壇の度真ん前だ。

成績が一番悪いからではない。寝てばかりだから、先生が注意できるようにだ。

・・・お、ちょうど先生が来たようだ。

山岡「お早う。早速だが、朝のホームルームを始める。」

もはやテンプレートと化した台詞を言いながら、山岡が朝のホームルームを始める。

山岡は身長190越えの強面体育教師だ。

山岡には誰も逆らわん。木川が一瞬でねじ伏せられたほどだしな。

落ちこぼれのクラスだから、それを押さえ込める為でも有るんだろ  
う。

山岡「いよいよ今月から、軍事訓練の実習が始まる。皆、適性検査の紙を渡すから、どの兵種を選ぶのかよく考えておくように。」

そう言つて、山岡は紙をくばりだす。

適性検査つてのは、以前やった、どの『武器』『兵種』などがわかる検査の事だ。

それが、A＋とG-のランクで別れている。

山岡「須藤・・・」

山岡が心配そうにしながら紙をわたしてきた。

須藤「どうつて・・・ええっ!!」

紙にかかれていたのは、



体力・B  
すげえな  
知力・F  
おい……………

突撃兵科・D  
技巧兵科・D  
支援兵科・D  
狙撃・偵察兵科・D  
待てやゴラツ！

通信・バツクアップ・G  
散々だな

須藤「先生…………あの…………一体…………その…………ええと…………それが…………けれど…………俺はどうすればいいんですか？」

山岡「知らん」

一言で返された！？

全部D…………どうすんだよ。中々良いけどさあ…………

山岡「各自、よく考えておくように。」

そう言っつて山岡は出ていった。

木川「須藤、お前どうだった？俺は体力A+、突撃兵科Cだったから突撃兵科に決定だな」

朝野「僕は・・・技巧にするかな体力あまりないしね。」

須藤「朝野お、木川あお前ら気楽だな・・・」

俺はそう言っつて紙を見せる。

朝野・木川「これは・・・」

2人とも気まずそうにしてんな。

須藤「適当にいろんな所受けてから考えるか。」

さて、授業の準備をしますか。現実逃避なんて言っつなよ。

～放課後～

授業？全く頭に入らなかつたぜ！

朝野「君は進学できるのかい？」

須藤「モノローグに割り込むなよ。」

時々こいつが超能力者じゃないかと思うね。

木川「やっとおわつた。帰ろうぜ」

「ま、待ってくれ！是非野球部に！」「いやサッカー部に」「バレ

「……」 「バスケットボール……」

須藤「お、来たか。相変わらずスカウト凄いな。どれか入らないのか？」

木川「いや、はいらん。自由に趣味を楽しめなくなるかならなあ」

全く勿体ない奴だ。

朝野「君はなんで二次元に走ったのかね？」

須藤「激しく同意するな」

木川「うるせえ。俺がユキちゃんに惚れたのは運命なんだよ」

ユキちゃんというのは、こいつが好きなアニメのキャラ……らしい。

須藤「まあ、人の趣味に文句はいえんけどな。」

朝野「そうだね」

俺と朝野は顔を見合わせ、自転車に乗る。

須藤「それじゃ。帰りますか。」

木川「はいよ」

朝野「やっとだね」

そう言って、自転車をこぎ、校門をでる。

風が冷たい。もう11月だもんなあ  
そう言っつて、俺は空を見上げる。

キラッキラッキラッ

ん？何か光った・・・まさかUFO・・・なわけないか  
特に気にする事もなく、俺たちは帰路についたのだった。

く???)

???)「やはり奴らですか!？」

???)「ええ、こちらの勧告を無視し続けています。」

???)「静観・・・この判断が吉と出るか、凶と出るか・・・」

ある暗い部屋で、何人かの老人が机を囲みながら、モニターを見て  
いる。

そこに写っていたのは・・・『UFO』だった

## 主人公と周りの状況の説明（後書き）

b さて、ギャルゲやった反動で女子ばかり出しますよ（・・・）

まあ、高校生の妄想とと思ってください？

インベーダーもアリ、クモ、ロボットと簡単に表記します。

主人公羨ましい！って作者が思う話になるんでしょうね（<|>）  
アイデア意見など有れば、頂けるとありがたいです>（|・|<

あ、批判はドシドシどうぞ（^・^）ノ

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n4759z/>

---

地球防衛軍～学徒兵達の記録～

2011年12月16日01時47分発行